奈良女子大学
関係者の皆様へ

先生主催の学会・シンポ・講演会 etc. で

託児を実施しませんか

女性研究者共助支援事業本部

学会や講演会など研究者の集まる場での託児は、最近ではめずらしくなくなりました。「研究者のワーク・ライフ・バランスの観点からも託児を実施したい」「しかしニーズがあってもノウハウがない」という声に応えて、女性研究者共助支援事業本部が託児をコーディネートします。一般向けのイベントや学内行事の際にも、『奈良女子大学 子育て支援システム イベント託児システム』をぜひご利用ください。

イベント託児システムの託児とは？

女性研究者共助支援事業本部（以下、共助本部）が主催者のニーズに合わせ、託児サポーターの募集、利用者への案内、託児室の設定など、一連の手配を進めます。共助本部では、本学関係者の子育て支援を行う『ならっこネット』の運営と、そこで活躍する子育て支援サポーターの養成を行っており、そのサポーターがイベント託児も担当します。イベント託児システムは平成 22 年 9 月から試験的な運用を始め、24 年度には本格的に稼働、同年度中に 36 件の依頼がありました（うち 4 件はキャンセル）。25 年度もすでに学会や講演会などで利用され、10 月現在で 24 件の依頼（うち 3 件はキャンセル）を受けています。

こんなところがおトク！

便利・安心：学内にある子育て支援室「ならっこルーム」を利用して、ならっこルームに慣れたサポーターが託児します。利用者への配慮や防犯の観点からも、「本学や研究者支援に関心の高いサポーターによる託児は安心」と評価されています。

経費が安い：託児にかかる費用は、サポーターへの人件費のみです。業者に依頼するよりずっと安価です。託児中は子育て支援システムの保険でカバーされており、保険代も不要です。＊保険適用可能な人数には上限があります。

小規模な託児がしやすい：託児募集をしてもニーズがあるかどうかわからない、あっても 1 人か 2 人くらい、といった小規模な託児にも対応します。キャンセル料は実施日の 1 ～ 2 日前まで発生しません。イベント開催日近くの急な依頼にも、できるだけ対応します。

託児方法は 2 通り

集団託児：2 名以上のサポーターが複数の子どもを預かります。預かる子どもの年齢や人数によって、必要なサポーター数は変わります。主催者がサポーターを雇用し、経費を支払います。

個別託児：1 名のサポーターが 1 名の子ども（またはきょうだい 2 名まで）を預かるマンツーマンの託児です。利用者がサポーターと契約し、経費を支払います。主催者は利用者をサポートします。

経費　（サポーター 1 人につき）

集団託児
（日時に関わらず）
一般サポーター　1000 円 / 時
リーダーサポーター　1300 円 / 時
＊サポーターが 3 名以上の場合、リーダーが 1 名以上必要です。

個別託児
平日 9：00-18：00　700 円 / 時
それ以外　800 円 / 時

＋　実費
（サポーターの交通費など）

利用条件

利用可能なイベント：本務先が本学である職員（附属学校を含む）が主要スタッフであるイベント

利用時間：7:30-22:00

託児される子どもの年齢：3 カ月児～小学 6 年生

託児室：学内では原則「ならっこルーム」を使用。他室使用の場合や学外での実施では、主催者が託児室を準備すること。

＊利用日の制限はありませんが、お盆や年末年始などはサポーターの確保が難しくなります。

実施例

集団託児：一般向け講演会開催の２か月前に依頼。子ども 16 名(0-2 歳３名、2-4 歳７名、5-6 歳２名、小学生４名)に対し、サポーターはリーダーサポーター２名を含む８名で対応。託児室として、ならっこルームの他にコラボレーションセンターの多目的共同セミナー室も利用。3 時間の託児。

個別託児：学術シンポジウム開催の半年前に依頼。2 週間前に、参加者（他大学の方）1 名の申し込み。4 歳児 1 名をならっこルームにて 4.5 時間の託児。

集団託児の風景

FAQ

本学の謝金で経費を支払いたいのですが。

謝金支払い書類の作成に必要な、サポーターの個人情報に関する書類は共助本部で作成します。主催者は伺いを提出し、託児終了後に就労表や交通費請求書などをサポーターと共に作成し、実施済み報告書を提出してください。謝金以外の支払い書類にも個々に対応します。

主催団体に託児の予算がありませんが。

個別託児を利用されますと、利用者個人が支払いますので、主催者の負担はありません。子どもが多くて集団託児にしたい場合は、利用者から託児料を徴収してお支払いいただく方法があります。子ども 1-2 名なら個別託児の方が手軽ですから、逆に託児予算のある団体の場合、個別託児の利用者に団体から経費補助を出したケースもあります。

共助本部に一切をまかせられるのですか。

共助本部は事前の準備を担当します。当日の託児の運営者及び責任者は主催者の役割りです。託児受付、託児室の準備や後片付けへの立ち会い、サポーターへの支払いや書類の作成、緊急事態への対応をお願いします（緊急時には、共助本部も対応します）。また利用者が学外者の場合、学内に不慣れであるため、主催者がサポートしてください。

託児会場は奈良女子大学内だけですか。

学外の会場でも実施できます。ただし、託児室の管理（備品などの準備、後片付け）、事前の案内などは主催者が行ってください。託児室が子どもが過ごすに不適当な場合、託児はできません。

イベントでないと利用できませんか。

大学入学試験当日については、個別託児を利用できます。また、本学に研究や業務で来られる方などの託児も、個別託児の一環として受け付けています。

イベント託児システムは、3 年前に産声をあげてから、実績を重ねている最中です。利用者・子どもがともに充実した時間を過ごせるよう、1 件ずつ丁寧に取り組んでいきたいと考えています。繁忙期や感染症流行期など対応の難しい時期もありますが、主催者の意向を踏まえながら、できる限りの対応をさせていただきます。イベント開催の際には、イベント託児の利用を是非ご検討ください。

本事業の目的は子育て支援ですから、上記に該当しない場合でも、あらゆるケースをご相談ください。保険の適用が可能な範囲で対応を検討します。

利用希望の方は、お問い合わせください。利用案内・申し込み書をお届けします。

お申し込み・お問い合わせ

女性研究者共助支援事業本部

H 棟 404 号室　Tel（内線）: 3344

E-mail : shien@cc.nara-wu.ac.jp

小学６年生までのお子様をお持ちの本学関係者の皆様へ

「ならっこネット」に登録しませんか

ならっこネットは、子育て支援システム所属のサポーターがお子さんの送迎・預かりを行うシステムです。家庭ごとの要望に合ったサポーターを数名「共助サポーター」としてマッチング、知り合いに頼む感覚で支援を依頼できます（支援は有料です。学生には**育児奨学金制度**あり）。今すぐ依頼の予定はなくても、いざというときのお守り代わりに登録されている方もおられます。登録なしにいきなり「明日支援して」という依頼は受けられませんので、あらかじめご登録ください。ならっこルームの親子利用も気軽にできます。**登録料・保険料は無料**です。

お申し込み・お問い合わせは共助本部まで。

妊娠・出産・子育てについてのご相談は ››› **母性支援相談室**